

## 主要参考文献

著・編者	書名
大蔵省銀行局金融年報編集委員会	銀行局金融年報
〃	銀行局現行通達集
大蔵省銀行局内会 金融制度調査会	金融制度調査会資料・同答申集
日本銀行調査局	日本金融史資料（明治・大正・昭和編）
全国地方銀行協会	合理化推進資料
東京銀行集会所	銀行通信録
〃	東京経済雑誌（明治14年～大正3年）
大蔵省	明治大正財政史
〃	大蔵省百年史（上・下）
日本銀行	日本銀行80年史
経済企画庁	戦後経済史
明石照男・鈴木憲久	日本金融史（明治・大正・昭和編）
竹沢正武	日本金融百年史
後藤新一	本邦銀行合同史
石川通達	やさしい日本金融史
手塚正夫	日本の金融100年
吉野俊彦	わが国の金融制度と金融政策
財団法人日本財政経済研究所	日本金融財政史
現代日本産業発達史研究会	現代日本産業発達史「銀行」
山口和雄	日本経済史
全国銀行協会連合会 東京銀行協会	銀行協会三十年史
全国地方銀行協会	地方銀行小史（土屋喬雄監修）
全国地方銀行協会 （地方金融史研究会）	地方銀行史談
全国地方銀行協会	地方銀行の長期ビジョン
	第一銀行史ほか各銀行史
全国相互銀行協会	相互銀行史
山口和雄ほか4名共同編集	日本産業100年史（上・下）（有沢広巳監修）
協和銀行	本邦貯蓄銀行史
山口茂	恐慌史概説
高橋亀吉・森垣淑	昭和金融恐慌史
佐上武弘	転換期の銀行

著 者	書 名
財団法人金融研究会	我国における銀行合同の大勢
日本経済研究会	全国銀行総覧
大蔵省	銀行総覧
日本金融通信社	銀行大鑑
〃	日本金融名鑑
日本経済研究会	全国銀行業績総覧
経済企画庁	経済白書
〃	資料経済白書25年
〃	世界経済白書
〃	国民生活白書
通商産業省	通商白書
有斐閣	銀行実務講座(初・新)
大蔵省	大日本貨幣史
日本銀行	図説日本の貨幣
日本学術協会	日本貨幣史
〃	日本通貨変遷図鑑
東都通信社	大日本銀行会社沿革史(大正2年)
日本銀行	日本金融年表
東洋経済新報社	政治経済大年表
岩波書店	近代日本総合年表
千葉県	千葉県長期計画書(初・新)
〃	千葉県第1次～第4次総合5カ年計画
〃	千葉県政概要
〃	戦後県政の歩み
〃	京葉臨海工業地帯
〃	京葉臨海工業地帯の歩み
〃	千葉県の開発
〃	県報
〃	稿本千葉県年表
〃	千葉県誌 巻の上・巻の下
〃	千葉県史(明治・大正・昭和編)
〃	千葉県史科
〃	房総通史
〃	千葉県公害白書
〃	工業総覧
〃	千葉県の水産
〃	千葉県経済の発展と変貌

著・編者	書名
千葉県 〃 千葉県立中央図書館 小笠原長和・川村優 郡役所・郡教育会・市町村 成田山新勝寺 毎日新聞社 印旛郡郷土研究会 斎藤勝久 千葉新聞社 敬愛経済大学(土屋喬雄編) 第九十八銀行 小見川農商銀行 野田醤油株式会社	千葉県議会史 漁業センサス結果報告 千葉県地名変遷総覧 千葉県の歴史 県内各郡誌, 各市町村史 成田山史(初・新修) 千葉百年 北総名勝 佐倉誌 全 八街国立銀行有史に関する研究報告 千葉銀行十年の歩み 千葉県銀行史談(第1～5集) 第九十八銀行六十五年誌 小見川農商銀行三十年小史 野田醤油株式会社三十五年史(付録 野田商誘銀行四十五年誌)
(統計) 経済企画庁 〃 〃 通商産業省 〃 総理府統計局 日本銀行統計局 〃 千葉県 〃 東洋経済新報社	国民所得統計年報 日本経済統計 県民所得統計(昭和30～40年) 工業統計表 商業統計表 日本統計年鑑 明治以降本邦主要経済統計 経済統計年報 千葉県統計書・千葉県統計年鑑 県民所得推計報告 長期経済統計
(新聞)	日本経済新聞・朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・国民新聞・千葉日報・ 千葉新聞・千葉毎日新聞・房総日日新聞・新総房・千葉新報

## あ と が き

調査部において『千葉銀行史』編集のための資料収集を始めたのは、昭和42年1月のことであった。銀行史の編集は、当行にとって初めてのことであり、手がかりとなる資料の収集も思うにまかせず、編集についての考え方もなかなかまとまらないまま月日を重ね、45年3月に至ってようやく編集大綱の決定をみた。同年4月以降、逐次担当者が増員され、資料の収集・整理、年表の作成、写真撮影を進めたが、46年11月になって専任者4人が決定し、本格的作業にとりかかった。47年7月から本文執筆に入り、48年の前半で執筆を終わる予定であった。しかし、当初は『千葉銀行30年史』として、創立前史については略記するにとどめ、創立後30年間を中心に記述するという方針で進めたが、この際、前身銀行についても入手した資料に基づき、その記録を残したいということで、編集の構想を変更したこと、加えて創立30周年に際して「記念アルバム」の発刊が決定し、その編集に携わるために、一時執筆を中断したことなどにより、48年中に刊行する予定が1年余遅れ、今日ようやく発刊にこぎつけた次第である。

編集に当たって、われわれは当行創立以来の歩み、ならびに、さかのぼって明治初期以来の前身銀行の歩みを正確に記述することに努めたが、当行の歴史は、わが国経済および千葉県を中心とする地域経済と離れてあり得ないところから、わが国および千葉県の経済・金融情勢の記述にもかなりのページをさいた。その作業は予想外に苦勞が多く、必ずしも順調には進まなかった。明治以降当県に設立された銀行は89、そのうち当行の源流をなす銀行は58を数えた。これらの多くは弱小銀行で、その歴史も長くは続かなかった。そのなかで「銀行史」を残したのは、わずか3行に過ぎなかった。とりわけ当行の支柱の一つである千葉合同銀行の記録が、内部にはほとんどなかったこと、また、当行本店社屋が戦災を受け、貴重な史的資料、とくに合併関係諸資料が焼失したこと、さらに営業店に残されていたであろう諸資料も長い年月の間に散逸してしまったこと、加えて創立以後のものであっても、店舗の新築移転や増改築、あるいは古文書類の整理などによって廃棄されたことなどの理由もあって、資料の収集はきわめて困難であった。今後は、行内の史的資料が確実に残されていく体制が必要であろうと思われる。

外部の資料についても、千葉法務局が戦禍に遭い、商業登記簿を焼失したため、千葉市を主として同法務局管内に本店のあった銀行の経歴について、手がかりを求めることが難しかった。このため、資料の収集に当たっては千葉県庁・県立中央図書館をはじめ東京大学経済学部図書館・国立国会図書館・大蔵文庫・東京銀行協会図書室・全国地方銀行協会図書資料室・県内法務局出張所など各方面に閲覧の便をお願いした。さらに国立銀行紙幣の撮影については、日本銀行調査局に格別のご好意をいただいた。そのほか、退職役職員・県内各事業所・取引先にも資料の提供など数々のご便宜、ご協力をいただいた。ここに記して深く謝意を表するものである。

この銀行史が、大綱の決定から資料収集・本文の執筆・校正・写真撮影まで、すべて当行内部の手によってできあがったことは、まことに感無量のものがある。東奔西走の資料収集・写真撮影、夜遅くまでの執筆・通読検討会など、担当者一同は行史編集という難事業に携わる機会を与えられた責任を痛感し、全力を傾注したつもりである。その過程で、役員はじめ本部各部の行史編集窓口担当者、ならびに本史編集の期間に調査部に在職された諸君のご指導・ご助力に対し心からお礼申し上げる。

このようにして、本史はようやく完成をみた。私どもの意図したことは大きかったが、力不足や資料不足で、多くの年月を費やしたにもかかわらず、内容についてはいたらない点が少なくないと思うが、本史によって千葉県とともに歩んだ当行の足跡をいささかなりとも知っていただければ幸いである。

本史編集に当たり、一方ならぬ心を寄せられ、ご懇切なるご助言を賜った千葉大学白浜兵三教授のご厚意に対し、また、本史の印刷・製本をお願いした大日本印刷株式会社の方々の絶えざるご尽力に対し、さらに写真撮影にご助力いただいた佐川富三・宇佐美順三両氏のご苦勞に対し、心から感謝申し上げます次第である。

最後に、これを土台として当行の新しい20年、30年の歴史がさらに積み重ねられることを念願するものである。

昭和50年3月

調査部（行史編集担当）

鈴木 潔	黒岩 敏夫
尾崎 輝夫	久貝 林太
佐瀬 信行	埴 雄治

## 千葉銀行史

---

昭和50年3月31日発行

発行 株式会社 千葉銀行  
〒280 千葉市千葉港1番2号

編集 株式会社 千葉銀行  
(調査部)

印刷 大日本印刷株式会社 榎町工場  
東京都新宿区榎町7番地

---